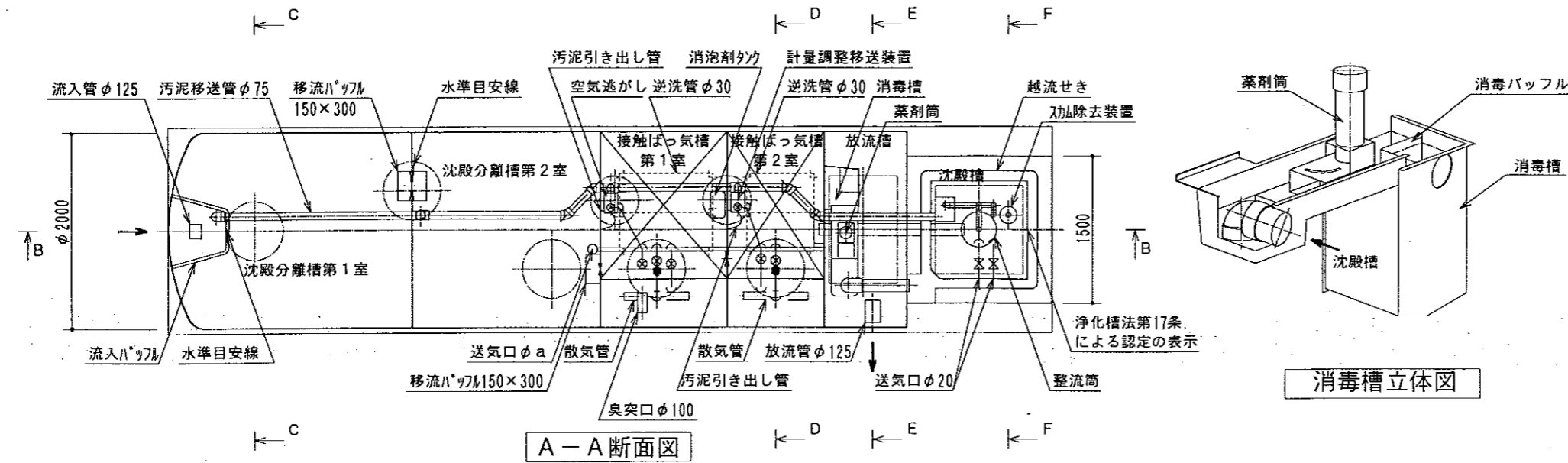
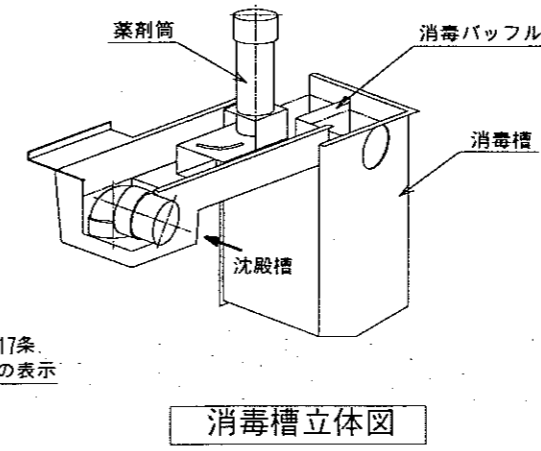


工場生産浄化槽認定シート

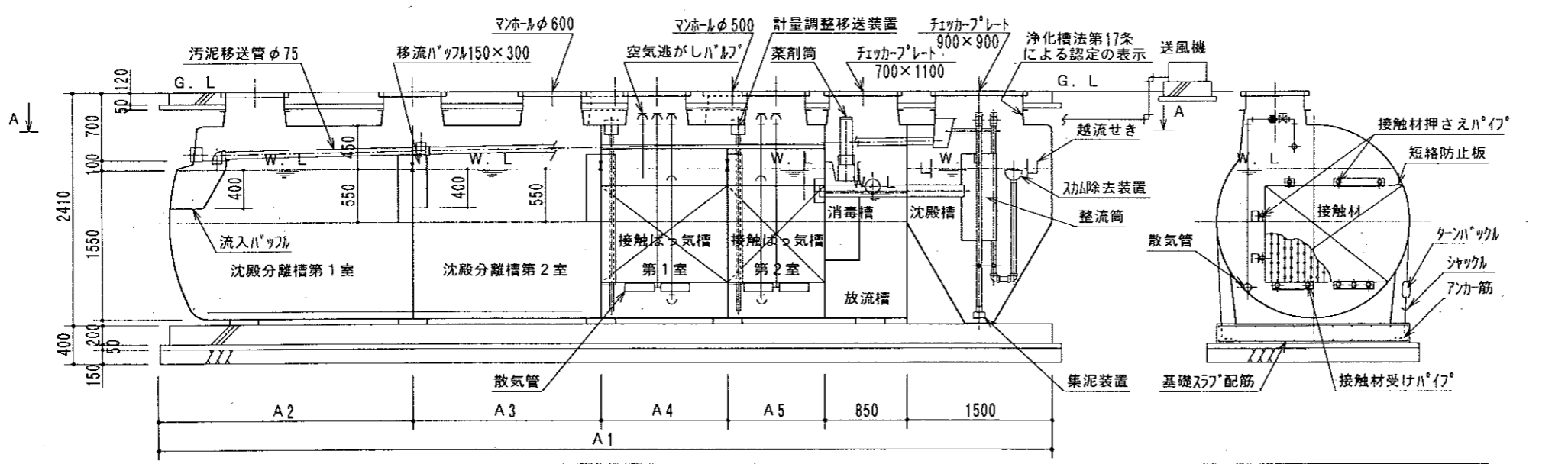
昭和55年建設省告示第1292号第1第一号による分離接触ばっ気方式



A-A断面図

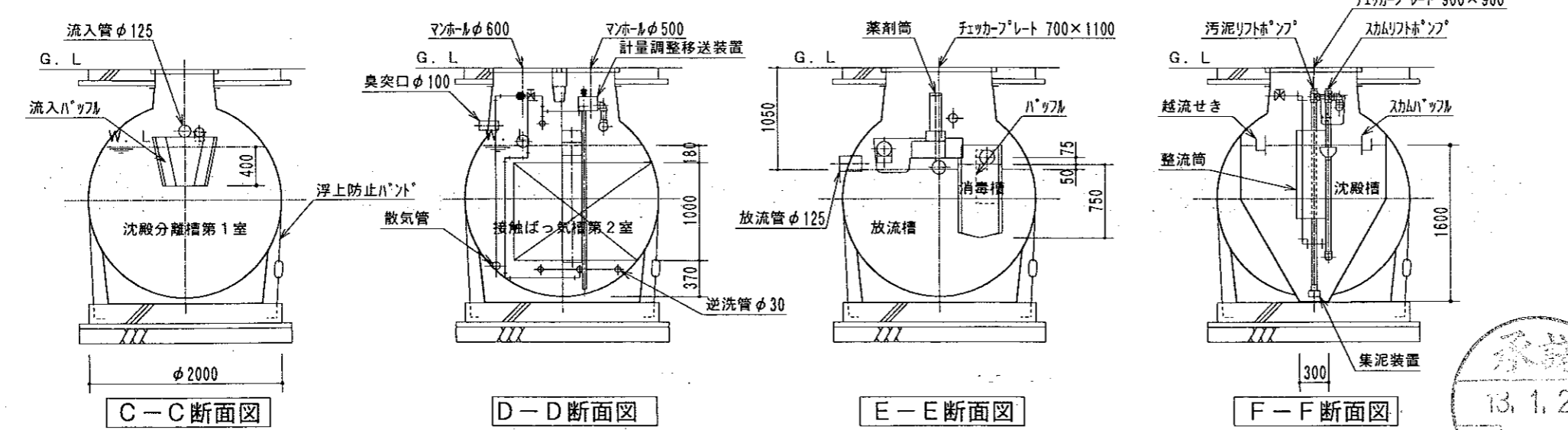


消毒槽立体図



B-B断面図

接触材取付図、浮上防止方法



C-C断面図

D-D断面図

E-E断面図

F-F断面図

会社名	ダイキ株式会社 〒791-8517 愛媛県松山市美沢1-9-1 TEL(089)927-2222			
型式	ダイキ小規模合併処理浄化槽 SNH-			
認定番号	32型	35型	40型	42型
	00K-1D-049	00K-1D-050	-1	-1

平成12年10月1日認定 放流水質 BOD20mg/l以下

仕様表		32	35	40	42
有効容量	処理対象人員	32	35	40	42
	沈殿分離槽第1室	6.260	6.260	7.331	7.853
	沈殿分離槽第2室	4.310	5.068	5.225	5.225
	接触ばっ気槽第1室	2.926	3.422	4.232	4.545
	接触ばっ気槽第2室	2.612	2.612	2.612	2.612
	沈殿槽	2.024	2.024	2.024	2.024
	消毒槽	0.108	0.108	0.108	0.108
	A ₁	8,640	9,120	9,900	10,220
	A ₂	2,520	2,520	2,930	3,130
	A ₃	1,650	1,940	2,000	2,000
A ₄	1,120	1,310	1,620	1,740	
A ₅	1,000	1,000	1,000	1,000	

材料材質及び機械設備の仕様	材質	FRP (ガラス繊維強化プラスチック)		
	板厚	3.2~7.0		
	仕切板材質	FRP (ガラス繊維強化プラスチック)		
	仕切板板厚	4.8		
	形状	波板状		
	接触材材質	PVC (ポリ塩化ビニル)		
	目幅間隔	80		
	比表面積	50m ² /m ³ 以上		
	散気管材質	PP (ポリプロピレン)		
	散気管長さ	300×4	300×2、250×4	
送風機型式	ロータリー式又はルーツ式			
吐出風量(l/分)	250	300	350	
流入流管材質	PVC (ポリ塩化ビニル)			
流入流管内径	125			
マンホール等材質	特殊レジンコンクリート、SS (一般構造用圧延鋼材)、又はFRP			
内径	φ500×2、φ600×5	φ500×2、φ600×6		
個数	700×1100×1	700×1100×1		
	900×900×1	900×900×1		

注：寸法の単位はmm、容量の単位はm³とする。

財団法人 日本建築センター
〒105 東京都港区虎ノ門三丁目2番2号 第30森ビル
本シートについて無断で内容変更、転載を禁ず。

浄化槽の表示ラベル

●浄化槽法による法定表示

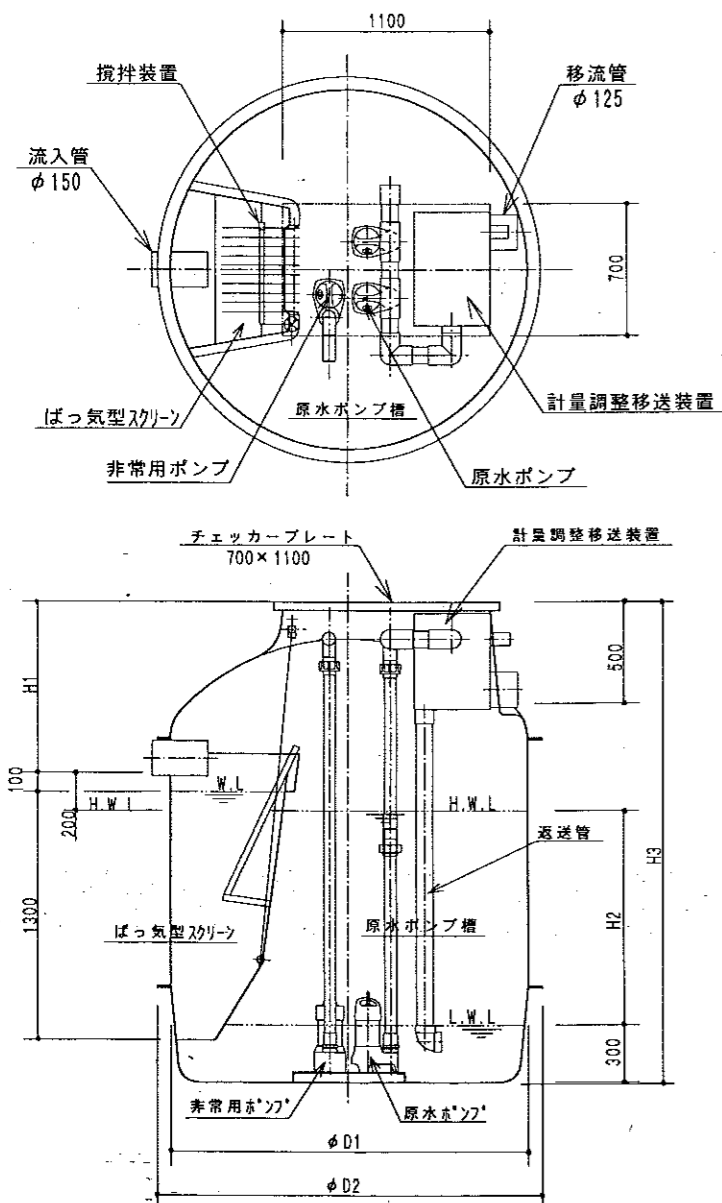
建設大臣型式認定浄化槽 合併処理・分離接触ばっ気方式	
ダイキ小規模合併処理浄化槽 SNH- 型	
認定番号	認定年月日 平成12年10月1日
処理能力	人 実容量
放流水BOD	20 mg/l以下 BOD除去率 90 %以上
製造番号	
ダイキ株式会社	

実寸法：縦 7cm × 横 15cm

●(社)型式浄化槽協会ラベル



ポンプ升 (原水ポンプ槽) 構造図



設置場所の状況により、ポンプ升を設置する場合があります。

仕 様 表		型式	GP-16型	GP-19型	GP-23型
容 量 (m ³)	ばっ気型スクリーン		0.355	0.476	0.531
	原水ポンプ槽		1.922~ 3.933	2.733~ 5.568	4.157~ 8.312
寸 法 (mm)	D 1		1,600	1,900	2,300
	D 2		1,750	2,050	2,450
	H 1		900~ 1900	900~ 1900	900~ 1900
	H 2		1120~ 2120	1120~ 2120	1120~ 2120
	H 3		2530~ 3530	2530~ 3530	2530~ 3530
原水ポンプ (非常用ポンプ)	型 式		水中汚物ポンプ (渦流タイプ)		
	口径 (mm)		φ40 以上		
	揚水量 (m ³ /min)		0.01 以上		
	動力 (KW)		0.15 以上		

特 記 事 項

[維持管理上の注意事項]

(1) バルブの操作方法

- ① 吐出空気量の調整
散気管に設けた散気用バルブ及び空気逃がしバルブの操作により行います。
- ② 逆洗の方法及び剥離汚泥の移送
 - a. 逆洗用バルブ1個を全開とします。
 - b. 散気用バルブ、空気逃がしバルブ、エアリフト用バルブ、他の逆洗用バルブを閉じます。
 - c. 逆洗が終了したら次の逆洗用バルブを全開にして、先に終了した逆洗用バルブを閉じます。
 - d. 全ての逆洗が終了したら送風機を停止し、剥離汚泥を十分に沈降させます。
 - e. エアリフト用バルブ、空気逃がしバルブを開け、その他のバルブを閉じて送風機を運転し、空気量を調整しながら汚泥を流入部へ移送させます。
 - f. 移送量の計量は計量調整移送装置にて行います。(移送量は日平均汚水量の2倍程度とする)
 - g. 移送する汚泥がうすくなったら、散気用バルブを開き、逆洗用バルブ、エアリフト用バルブを閉じて、空気量の調整を行います。
 - h. 空気逃がしバルブは、必要に応じて開閉して下さい。

(2) 清掃上の注意事項

- ① 接触ばっ気槽
接触ばっ気槽を清掃する場合は十分逆洗を行い、剥離汚泥を沈降させた後、汚泥引き出し管にバキュームホースを挿入して、沈殿汚泥を引き抜きます。

[設置工事上の取扱い注意事項]

- (1) 深埋めをする場合
流入管底が深くなり、深埋めをする場合は嵩上枠 (FRP製) を用いて施工します。
- (2) 越流せきの水平の調整
樋の吊具を上下し、越流せきを調整します。
- (3) 配管をする際の注意事項
 - ① 防臭対策
浄化槽出口の会所では、浄化槽側にトラップをとり、臭気の流出を防ぎます。
 - ② 雨水配管との区別
浄化槽への流入配管と雨水配管とは必ず別配管とし、雨水が浄化槽に流入しないよう注意して下さい。

[その他]

- (1) 放流ポンプ槽の位置
放流ポンプ槽を設置する場合は、放流槽に放流ポンプを設けて放流ポンプ槽とします。
- (2) 水中ブロー槽の位置
水中ブロー槽を設置する場合は、沈殿槽と消毒槽の間に設けます。